

令和5年度
第12回関川村地球温暖化対策会議 議事録

○日時 令和6年3月21日(木) 10:00~11:15

○場所 関川村役場3階 大会議室

○出席者

区分	氏名	所属	備考
会長	加藤 弘	関川村 村長	
副会長	菅原 晃	新潟大学 准教授	
会員	角 幸治	関川村 副村長	
会員	池田 高雄	区長連絡協議会 会長	欠席
会員	須貝 和正	(株)公衛社 専務取締役	
会員	中倉 虎治	関川村商工会 会長	
会員	近 甲威	関川村森林組合 組合長	
会員	渡邊 与一	関川村燃料組合 組合長	
会員	阿部 和聖	荒川水力電気(株) 関川事業所所長	
会員	小島 隆司	東急不動産(株) 陸上風力開発グループ課長	
会員	小波津 貴司	東急不動産(株) 陸上風力開発グループ	欠席
会員	渡部 昭心	三峰川電力(株) 事業開発部 部長	
会員	佐藤 靖徳	(株)パンタレイ 代表取締役	欠席
会員	荒川 由晃	(株)パンタレイ	欠席
会員	岡部 潤	(株)第四北越銀行 コンサルティング事業部副部長	
会員	渡部 良	(株)第四北越銀行 坂町支店支店長	欠席
会員	横田 幸生	村上信用金庫 総合企画部課長	
会員	大滝 武博	村上信用金庫 関川支店支店長	
会員	石本 祐子	(株)アドバンテック サステイナブル事業部長	代理:羽倉
会員	新井 聖司	大日本ダイヤコンサルタント(株) 推進部推進室 室長	会場:麦島 Web:足立,牛丸
オブザーバー	覚張 昌一	新潟県環境局環境政策課 課長	代理:高橋
事務局	大島 祐治	関川村 地域政策課脱炭素推進室 室長	
事務局	栗田 敏宏	関川村 地域政策課脱炭素推進室 参事	
事務局	前田 智博	関川村 地域政策課脱炭素推進室 副主幹	
事務局	田村 美樹	関川村 地域政策課脱炭素推進室 主事	

○次第

- (1) 開会挨拶 関川村 加藤村長
- (2) ゼロカーボンシティ宣言について（温暖化対策実行計画）
- (3) 連携協定について
- (4) 森林ワーキンググループの検討状況について
- (5) 次年度会議スケジュールについて
- (6) その他
- (7) 閉会挨拶 新潟大学 菅原准教授

○配布資料

- 資料 1 第 12 回関川村地球温暖化対策会議 次第
資料 2 第 12 回関川村地球温暖化対策会議 参加者名簿
資料 3 ゼロカーボンシティ宣言について
資料 4 関川村地球温暖化対策実行計画 区域施策編・事務事業編（概要版）
資料 5 連携協定の締結について
資料 6 森林ワーキンググループの検討状況について
資料 7 令和 6 年度 村の温暖化対策事業の概要並びに会議の運営スケジュールについて

○議事内容

発言者	意見
(1) 開会挨拶	
会長	<ul style="list-style-type: none">・ 今回、第 12 回目の関川村地球温暖化対策会議である。・ 3 月議会の定例会で、脱炭素について住民へのわかりやすい説明が必要など、様々な議論があった。まだそこまで至っていないが、一步一步進めている状況だ。・ 本日は令和 5 年度最後の会議となる。現状の進展状況などを説明させていただき、様々なご意見をいただきたい。
(2) 「ゼロカーボンシティ宣言について」（地球温暖化対策実行計画） 事務局より説明	
	<ul style="list-style-type: none">・ 質疑応答なし
(3) 「連携協定について」 事務局より説明	
事務局	<ul style="list-style-type: none">・ 今回の連携協定については、関川村だけで締結できたわけではなく、受託者である大日本ダイヤコンサル（株）の協力があり成就したものである。
副会長	<ul style="list-style-type: none">・ 匝瑳市ではどのような農作物を作っているのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none">・ 資料 5 の P2 に、ソーラーシェアリングの下でコンバインにて刈取りを行っている写真を掲載している。大豆の栽培が行われている。

発言者	意見
会員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 匝瑳市が関川村との連携を決めた理由について、何をメリットと感じたのか。 ・ ソーラーシェアリングとは具体的にどのような仕組みなのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ ソーラーシェアリングとは、太陽光パネルを設置した下の土地を利用して作物栽培を行うことで、農地を生かしながら発電を行うものである。営農と発電が両立する手法だ。 ・ 匝瑳市からは農業の活性化という面から、関川村の脱炭素先行地域の計画内容をご覧いただき、声をかけていただいた。 ・ 立地条件は違うが、相互連携することで技術共有や課題解決を図るという点から連携協定の話をしていただいた。
(4)「森林ワーキンググループの検討状況について」 事務局より説明	
会員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 村有林と民有林の割合はそれぞれの程度か。 ・ 林業は人材の問題があるが、関川村で林業に関わっている人はどれくらいいるのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 森林の割合について、森林面積全体で 26,200ha、そのうち国有林が 19,740ha、民有林が 6,450ha となっている。民有林に県有林や村有林といった公有林が含まれるが、公有林は民有林の約 10%を占めている。民有林全体における人工林面積は 2,900ha、人工林率は 45%ほどであり、ほぼスギ材である。 ・ 国勢調査の結果時点では、林業従事者は 20 人程度となっている。年を追うごとに人員不足が大きな課題となっており、森林組合からも同様の課題が出ていた。作業員不足解消について、専門学校等との連携を探る協議を行っているが、煮詰まっていない状況だ。
会員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人員不足解消のため、機械を導入して伐採等を行っている例がある。また女性を雇用している会社の事例として、休憩スペースを設けて休めるようにするなど、若い男女が働きやすい環境を作っている。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 機械化については、森林WGでも「リースで高性能機械を導入する」等を含めて検討しているが、どこで・どの機械が・どのように活用すると一番効率的なのかがわからないため、農林の知識を深めて検討を行っていききたい。 ・ 女性の進出に関しては、村でも必要だと感じている。意見や情報があればいただきたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本来であれば今回会議で森林WGについて最終報告を行う予定だった。様々な課題はあるが骨子はおおかたまとまっており、事業採算性を含めてまとめたうえで、5月の次回会議に報告できるようにする。 ・ バイオマス発電事業者については9月には決定しておく必要があるだろう。 ・ 地域マイクログリッドは令和7年度末に完成予定だ。公共施設への安定した電力供給という観点で木質バイオマス発電は必要不可欠であるため、全体スケジュールを考えながら、今後2カ月で内容を検討していく予定である。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ バイオマス発電事業者の選定等を進めていると思うが、農林課に関する事業につ

発言者	意見
	<p>いては農林課が責任をもって行う話だ。会議で農林分野も議論するのであれば、農林課長が出席すべきだ。</p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> この場で審議を行う必要性が考えられるため、今後は会議メンバーとして農林課にも出席していただく。
(5) 「次年度会議スケジュールについて」 事務局より説明	
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 村長から指摘いただいたように「双方向の議論」がこの会議のテーマである。 将来の関川村の計画に関して、元来の議論に加え、有識者が持つ知見や情報を提供いただき、方向性の検討を行っていくと認識している。 事業は動き始めたが、2030年度CO2排出量46%減という目標達成については厳しい状況である。産業部門や運輸部門の参画を得ないと減っていかないというのが現実だ。 小水力の電源開発を進めていく必要があり、様々な事業者から手を上げていただいている状況である。皆様から幅広く意見をいただき、議論していきたいと考えている。
(6) その他	
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 栗田参事は、今後「アドバイザー」という形で参加していただく予定である。
会員 (副村長)	<ul style="list-style-type: none"> 新潟県の産業立地課へ異動することになった。 組織改正があり、今後は関川村「脱炭素推進室」として独立することとなる。
会長	<ul style="list-style-type: none"> せきかわふるさとエネルギー（株）が事業を開始したが、事実上、村の職員が担っている状況である。 今後の事業推進に向けて、人材確保をしっかりと行わなければならない。脱炭素に関わる人材がいたら情報をいただければと思う。
(7) 閉会挨拶	
副会長	<ul style="list-style-type: none"> 関川村が導入したEV車に乗せていただいた。エネルギー源は太陽光であり、再エネ利用の電気自動車に関川村で実用化していることに、事業の進捗を実感している。 今後も脱炭素の取組が加速していくことを祈念して、閉会の挨拶とさせていただきます。

以上